

ー2024年度第2回（第29回）建設技術講演会ー

共催：（一財）茨城県建設技術管理センター
（公社）土木学会 関東支部 茨城会

（一財）茨城県建設技術管理センターおよび（公社）土木学会関東支部茨城会では、都市空間の安全安心を創る様々な建設技術について、最先端の研究者・技術者をお招きして勉強する会を広く一般に公開しています。私どもが安心して暮らすことのできる社会を創るための建設技術を多くの方々に知って頂きたいと、参加費は無料とし、技術者の継続学習への貢献を考え、聴講者には土木学会 CPD 単位をお渡ししております。この度は下記2名の講師による講演を企画いたしました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。どうぞお気軽に参加申込を頂ければと存じます。

○開催日時：2024年11月5日（火）受付 13:00～ 講演会 13:45～16:15

○場所：茨城県建設技術研修センター 3階大ホール
〒310-0004 茨城県水戸市青柳町 4193

○プログラム：

13:45 開会

13:45 主催者挨拶

13:50～14:50 茨城県における遺跡と『常陸国風土記』の世界

〈講師〉日立市郷土博物館 学芸員 猪狩 俊哉 氏

〈概要〉人類の活動の痕跡である遺跡（埋蔵文化財）は、日本国内に約47万か所があり、その内の約1万2千か所が茨城県内にあります。遺跡は人類の痕跡であるので本来身近なものであるはずですが、数千年以上前の痕跡であったりして、日常的に意識する存在とは言い難いものです。一方で、現代社会におけるさまざまな土木工事をきっかけに地中から姿を現すこともあり、唐突に身近な存在になる場合があります。そこで、今回は身近なようで身近でない遺跡の取扱いを定めた文化財保護法やそれに基づく取扱いについて解説するとともに、茨城県を代表する古代文献のベストセラーである『常陸国風土記』を通して、実はわたしたちの住む土地のそこかしこに残された「地名という遺跡」についても紹介します。

14:50～15:00 休憩

15:00～16:00 茨城県の地質からわかる日本列島の地質発達史

〈講師〉茨城大学 名誉教授 田切 美智雄 氏

〈概要〉多賀山地にある日本最古のカンブリア紀（5億年前）地層の誕生が日本列島の地層の始まりです。カンブリア紀に火山列島として形成されてから、中生代白亜紀（6500万年前）まで日本列島の地層は中国大陸と一緒に移動していました。新生代になると日本列島と大陸との間に地溝が生じ、日本海が広がっていきます。この動きで、日本列島は大陸から分離し二つに分かれて移動しました。この動きの最後に、棚倉断層を境に東北日本と西南日本が接合し、再び一つの日本列島となりました。現在日本海の拡大は止まっており、日本列島は太平洋プレートとフィリピン海プレートにより大陸方向に押されています。

16:15 閉会

○参加費：無料（事前登録制）

○特典：希望者には土木学会 CPD 単位が発行されます（2.0単位）

○申込方法 : 下記申し込みフォームより参加登録をお願いいたします

<URL>

<https://forms.gle/HjTnnvWQMhu5rc4f9>

<QRコード>



※定員に達し次第、申込締切とさせていただきますのでご注意ください

○申込期限 : 10月25日(金)

○連絡先 : 〒316-8511 日立市中成沢町4-12-1 茨城大学日立キャンパス
土木学会関東支部事務局 担当: 曾我部
TEL / FAX: 0294-38-5160 E-mail: jsce.ibaraki@gmail.com